

# 福島再生・未来志向プロジェクト

- 福島県知事からの要望を受けて、2018年8月に「福島再生・未来志向プロジェクト」を始動。
- 2021年4月には、環境再生・資源循環局に「福島再生・未来志向プロジェクト推進室」を設置するなど、体制を強化しながら取組を推進。

## 基本的な考え方

- 福島県内の地元のニーズに応え、環境再生の取組のみならず、脱炭素・資源循環・自然共生という環境の視点から地域の強みを創造・再発見し、福島復興の新たなステージに向けた取組を推進。
- 環境省事業を効果的に組み合わせ、また、放射線健康不安に対するリスクコミュニケーションや広報・情報発信を通じて地元に寄り添いつつ、分野横断的な政策パッケージを戦略的に展開。

## 産業創生への支援

### 〈なりわいの復興〉

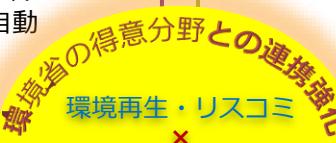
- 廃棄物リサイクル産業の創生を支援。地元企業等の共同事業として不燃性廃棄物の再資源化施設が、2020年10月に竣工した。



使用済み太陽光パネルの先端リサイクル技術



- 先端リサイクル技術の実証や事業化に向けた取組を推進（使用済み太陽光パネルのリサイクルや、人工知能を使った自動選別システム等）



環境再生・リスコミ  
×  
脱炭素・資源循環・自然共生

復興・再生に貢献

## ふくしまグリーン復興への支援

### 〈自然資源活用による復興〉

- 2019年4月に福島県と共同で策定した「ふくしまグリーン復興構想」に基づき、国立・国定公園の魅力向上等の取組を推進。



尾瀬沼ビィター  
センター再整備

- 2019年4月に福島県と共同で策定した「ふくしまグリーン復興構想」に基づき、国立・国定公園の魅力向上等の取組を推進。2023年8月には磐梯朝日国立公園（土湯温泉・高湯温泉）がゼロカーボンパークへ登録。

## 脱炭素まちづくりへの支援

### 〈暮らしの復興〉

- 脱炭素社会の実現に向けた新たなまちづくりを支援。
- 2023年度は、3件の実現可能性調査、自立・分散型エネルギーシステム導入等へは10件の財政的支援を実施。2023年3月に設立した「脱炭素×復興まちづくりプラットフォーム」では、各テーマに応じた個別WGを設置し、復興まちづくりと脱炭素社会の同時実現に向けて検討を開始。



Jヴィレッジ（楢葉町）への  
太陽光発電施設の導入支援  
(2023年度事業)

## 地域活性化への支援

### 〈リスク・情報発信による復興〉

- 「リップルンふくしま」「環境再生プラザ」等を活用し、環境再生事業に対する放射線リスクコミュニケーションを実施。
- 環境省が所管する新宿御苑等においてイベントを開催し、福島の魅力を紹介するとともに、福島の環境再生の状況を発信。



活動の様子

環境省作成

# 福島イノベーション・コスト構想の取組について

- 浜通り地域等における産業の復興のため、同地域での新たな産業の創出を目指す構想。
- 6つの重点分野**を位置付け、産業集積、教育・人材育成、交流人口拡大、情報発信等に、「福島イノベーション・コスト構想推進機構」（2017年7月～、理事長 斎藤 保氏(IHI相談役)）、国、福島県、市町村等が連携し取り組んでいる。

## 6つの重点分野

### 廃炉

国内外の英知を結集した技術開発

廃炉作業などに必要な実証試験を実施する「楢葉遠隔技術開発センター」



### ロボット・ドローン

福島ロボットテストフィールドを中心としたロボット産業を集積

陸・海・空のフィールドロボットの使用環境を再現した「福島ロボットテストフィールド」



### 医療関連

技術開発支援を通じ企業の販路を開拓

「ふくしま医療機器開発支援センター」



### エネルギー・環境・リサイクル

先端的な再生可能エネルギー・リサイクル技術の確立

再生可能エネルギーの導入促進

「南相馬 万葉の里風力発電所」



### 農林水産業

ICTやロボット技術等を活用した農林水産業の再生

ICTを活用した農業モデルの確立「トラクターの無人走行実証」



### 航空宇宙

「空飛ぶ車」の実証や関連企業を誘致

「航空宇宙フェスタふくしま」



(公財) 福島イノベーション・コスト構想推進機構、国、福島県、市町村 等

#### 産業集積

- トップセールスでの企業誘致活動、マッチング支援
- 工場建設や新たな製品開発等への支援

#### 教育・人材育成

- 教育機関と連携した人材育成講座の実施

#### 交流人口拡大

- 地域と連携して新たな魅力を創造

#### 情報発信

- 東日本大震災・原子力災害伝承館の開館や、シンポジウムの開催